

『制裁論を超えて——朝鮮半島と日本の〈平和〉を紡ぐ』 出版記念公開シンポジウム

ご来場いただきありがとうございました。

去る9月8日、大阪で本書の出版記念シンポジウム〈日朝平壤宣言5周年を前に「北朝鮮問題」を語り合うタベ〉が開催されました（大阪市生野区民センター）。司会は著者の一人、LEE Heejaさん。編者、中野憲志さんによる「日本の問題としての北朝鮮問題」、共著者、宋勝哉さんによる「在日コリアンと南北朝鮮との関係について——歴史・現在・未来」、藤岡美恵子さんによる「北朝鮮バッシングにノーと言える『多文化共生』社会を」の三つの発題のあと、参加者からも日本の現状をめぐる率直な意見が交わされました。会のあと、参加者のお一人、李在一さんから次のような感想文が寄せられています。

李在一です。

■9月8日、大阪生野区民センターで開催された〈日朝平壤宣言5周年を前に「北朝鮮問題」を語り合うタベ〉に竹本さんと共に参加した。その感想と合わせて今後の思いについて述べたい。ちなみに当日、私は会場で『制裁論を超えて』という書籍を購入した。まだ序文しか目にしていないが、この本に対する現時点の印象から始めたい。

■共和国バッシングが国策となっておおわれている現在、その結果として複雑な現状を呈している状況に関する解説本としては、ひじょうに解りやすく読みやすい。同時に客観的な観点からバランスよく解説しようとする執筆者たちの熱意に敬意を評したい。共和国バッシングであふれている日本の現状に良心的（限界があるにせよ）に切り込もうとすれば、こういった形の本として結実するということになるのかな——というのが私の印象だ。

さて、当日はこの本を基本にそれぞれの執筆者たちが30分ほど語り、後は参加者らによるディスカッションというスタイルであった。

■振り返って思ったのであるが、可能であるならばいっそのこと参加者に対しては「読書会」というスタイルで集会が開催されれば確実に意義深い議論になると思われる。なぜなら共和国に対する現在の世論や動向、つまりバッシング状態が前提となる以上、問題はそこに多岐にわたる広範な無知があり、そうであるからこそ単に「知らなかった」というだけにとどまってしまう集会になってしまうのは実に惜しいというように感じた。おそらくこの集会に参加する人たちは、現在の共和国に関する報道に対する漠然とした疑問から私のようにマスコミを「死の商人」と位置づけている者まで、問題意識のありかたにかなりの幅がある。もう少し論点を絞り込んだ集会構成が必要な気がする。「読書会」であるならおのずと論点も絞られる。

■と、いうわけであるが、それが難しいということもよく理解できる。

■さて、私としては内心ある期待をもって当日に望んだ。それは共和国に対する日本の問題状況について、在日の個人的なメンタリティーに傍観的にふれてみたかったのである。それは社会に対する決意や表明ではなく、ひたすら現状に対する感覚的なもの、そういうものにふれることがひょっとしたらできるのではないかという期待をもって参加したのだ。集会の演題である「語り合うタベ」の「タベ」というソフトな語感にそこはかとなく魅かれた。個人的に私は、日本国籍離脱推進論者を自称しながら日本はもちろん韓国でも「非国民」で、共和国では「非人民」（概念は妙だが）であると開き直っているから、定期的に疎外感を埋めておくのにこしたことはないという感じ。

■当日、私も意見を述べた。マスコミ関係者が二人ほどいて、あれこれと現状追認を傍観者の立場で言うものだから、現在のマスコミは戦争を煽る「死の商人」に他ならないと断言した。するとそういった要素もあるが全否定はいけなとおっしゃるので、「いや、全否定しかない」と反論したところ、コメンテーターの中野氏が、共産党も含め各新聞の社説もすべて制裁支持の一角にそまっている事実を指摘。それを受けて、もう一人の報道関係者が「社内で制裁に疑問を指摘したら、おまえはそれでも日本人か」と注意されたという話が出た。挙国一致で制裁を支持している断面を見る思いがした。中野氏は制裁に反対する者はまさに非国民扱いを受ける風潮があると指摘していた。自他共に「非国民」である私が制裁を許せないと思うのはむしろ社会的構造であるのかも知れない。もっとも最近の日本政府は、天文学的な金額の兵器を買うために「国民の生命と財産」を口にすが、生活者としての「生命と財産」は、非国民と露骨に同じ扱いと化しているが。

■中野氏は、現在の研究者（学者）の沈黙に異議を唱え、「言うべきことは言わなければならない義務がある」という趣旨を強調していたのが印象的であった。私は「日韓分断を狙う北の思惑」というフレーズが、ワイドショーのコメンテーターからふんだんに使用される状況に唖然となった点も指摘した。民族の宿願である統一。それを自覚している者にとって「日韓分断」という言葉が如何に倒錯した概念であるのか、おそらくピンと来ない人々が今や多数派になったということであろう。

■帰り道に竹本さんと電車の連結部分で人目をしのびながら缶ビールを飲んで考えた。内容が未熟であっても、もっと発言していかねばと。

■ハンクの掲示板を今後は活用して、未熟であると自覚していても発言していきたいと考えた次第です。

●9月8日大阪イベントのスナップフォト●

